

第 章 - アルペンスキー

国際スポーツプログラムとしてのスペシャルオリンピックスアルペンスキー競技は、国際スキー連盟(FIS)のアルペンスキールールに従い行われるものとする。下記のスペシャルオリンピックス公式競技ルールには、全てのスペシャルオリンピックスアスリートのことをふまえて、FIS ルールの変更がなされているところがある。FIS のルールと矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスの公式ルールが適用される。

| | |
|---------------|-----------|
| セクション A：公式種目 | . 1 |
| セクション B：競技施設 | . 1 - . 2 |
| セクション C：用具 | . 3 - . 4 |
| セクション D：役員 | . 4 - . 5 |
| セクション E：競技ルール | . 5 - . 9 |

セクション A - 公式種目

- 1 . 上級ダウンヒル
- 2 . 上級ジャイアントスラローム
- 3 . 上級スラローム
- 4 . 中級ダウンヒル
- 5 . 中級ジャイアントスラローム
- 6 . 中級スラローム
- 7 . 初級ダウンヒル
- 8 . 初級ジャイアントスラローム
- 9 . 初級スラローム

ユニファイドダウンヒル・ジャイアントスラローム・スラロームは種目リストより削除されている。

下記の種目は、競技レベルの低いアスリートにとって有意義な種目である。

- 1 3 . スーパーグライド(初級大回転)
- 1 4 . グライド(直滑降)
- 1 5 . 1 0 m 歩行

セクション B - 競技施設

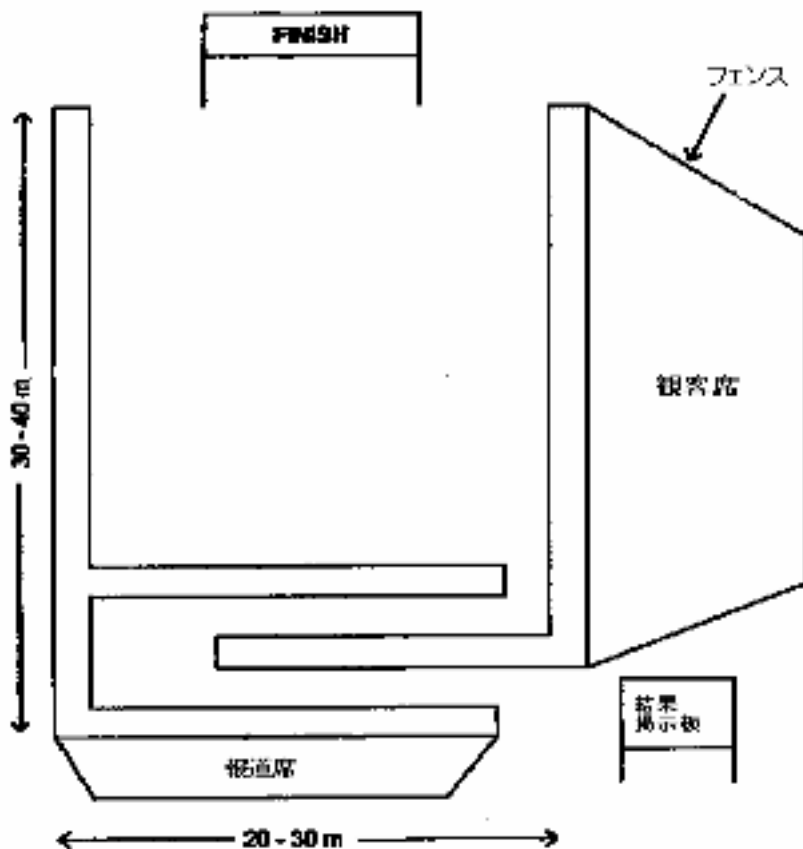
- 1 . スロープは、長さ、幅、それに困難さがスキーヤーの能力にあったものでなければならない。全ての競技と訓練用の施設は安全でなければならない。

SO Winter Sports Rules 2003 2006
ALPINE SKIING

- 2 . 可能な限り、競技場や訓練用の施設に直接か又はなるべく近くまでリフトがつかえるようにする。
- 3 . 全てのアルペンスキー競技のゴールのエリアは、競技者が安全に停止できるだけの十分な広さがなくてはならない。可能な限り、全てのゴールのエリアは観客が中に入れないようにしなくてはならない。(下記の図を参照)
- 4 . ウォーミングアップ用の施設はスロープとパーキング場から行きやすくなくてはならない。この施設は天候が悪い時にスペシャルオリンピックスの一団を収容するだけの広さがなくてはならない。ボランティアの登録はこの内部でされる。表彰式は悪天候の場合のみ内部でされる。

図：フィニッシュ スタジアム参照のこと

図 - フィニッシュ スタジアム

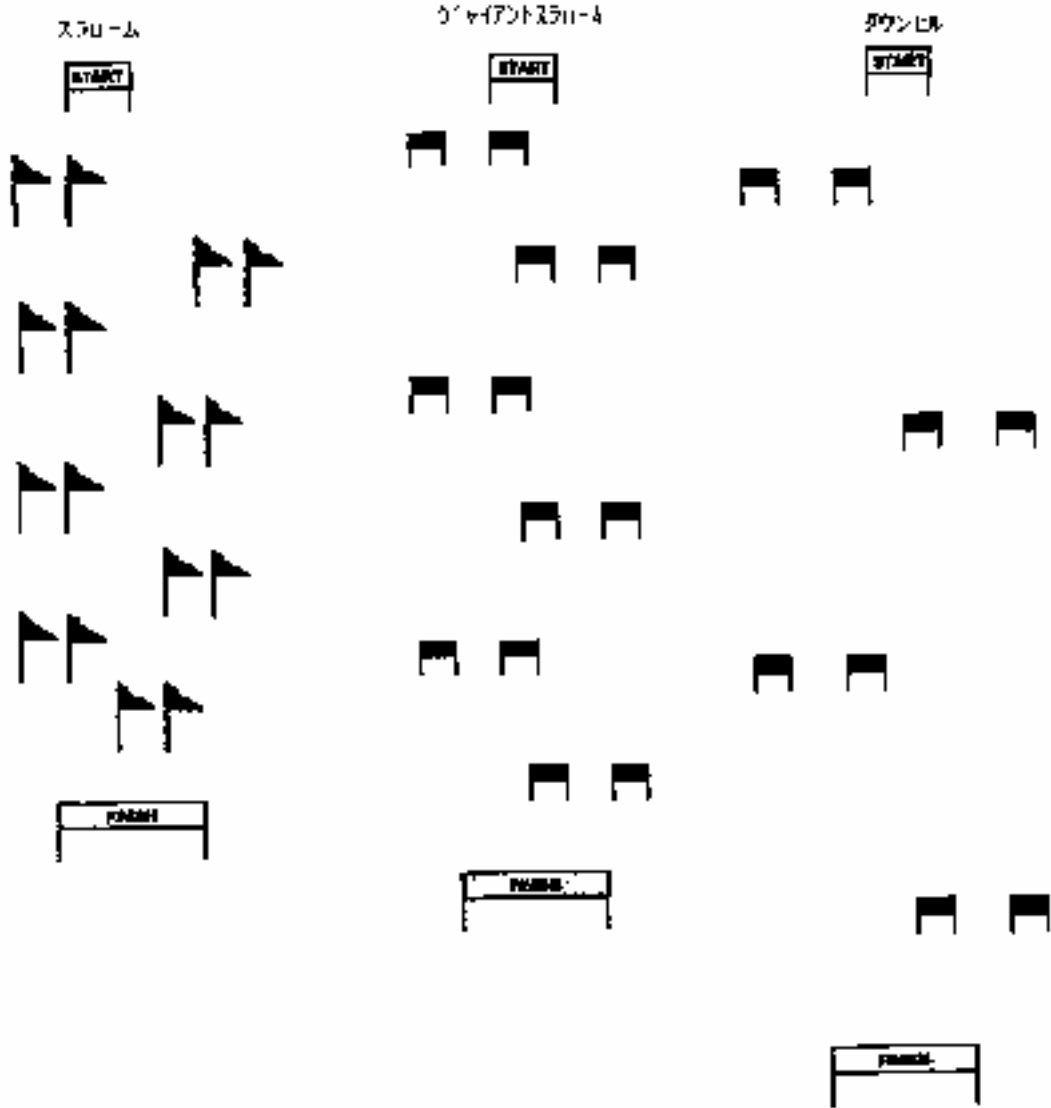


5. 駐車場は、競技のボランティア、スペシャルオリンピックスのスタッフ、コーチとアスリートに十分なだけの広さが無くてはならない。また、緊急用の車両が入れるようにしておかなければならない。
6. 付随的な施設
 - a. スキーの保管室
 - b. スキーの準備室
 - c. スペシャルオリンピックスの用具の保管室
 - d. スキーの貸し出し
 - e. コーチ用の会議室
 - f. 以下のための屋根のある施設
 - 1) 審判員の会議室
 - 2) 競技の計時と計算
 - 3) スタート用の建物

セクションC - 用具

1. 全ての公式訓練や、ジャイアントスラローム&ダウンヒルアルペン種目の全ての能力レベル競技において、アスリートはアルペンスキーに適切なヘルメットを着用しなければならない。スキーのトレーニングや、他のアルペン種目（全ての能力レベルのスラロームや、競技能力の低いアスリートのための種目 - 10M歩行、グライドやスーパースライド）でも、アスリートはヘルメットを着用したほうが良い。ヘルメットを選ぶ時には、知識のあるアルペンスキー競技のコーチやスキーショップの店員の助言を受けた方が良い。
2. スキー場一帯では全ての競技に対して十分に雪を手入れし、施設の準備をしなくてはならない。雪の状態が悪い時はコースを維持するための道具（熊手、シャベル、雪を固めるための化学薬品）が使われる。又これらの道具はスキー場に備えておく。
3. スラローム用のゲートを作るには、滑走面（斜面）を横切って4～6mの間隔に2本のスラロームポールを立てる。ジャイアントスラロームとダウンヒル用に間に可倒式の2本のポールを1セットとし、2セットで1つのゲートを作る。ジャイアントスラローム用には、回転側のポールと外側のポールとの距離は4～8mとする。ダウンヒルようには、距離を8mにする。ジャイアントスラロームとダウンヒルにはパネルが使われる。スタートの後にある最初のゲートは、常に赤でなくてはならない。

コース レイアウト



- 4 . コースを設定する人が雪の中にポールをたてるためにドリルやバールを用意しておく。
- 5 . スタートとフィニッシュは十分に保護されなくてはならない。柵またはポップ柵が使われる。
- 6 . 安全上の理由で、可能な限りコースは柵をして、一般のスキーヤーに独立した競技施設だと解るようにしておく。スキーエリアは追加の柵、保護用の袋を備える。
- 7 . スタートとフィニッシュには旗を使う。
- 8 . 可能な限り、バックアップ装置のついた電気計時器を使う。これが出来ない時は、手動で計時して構わない。ゲート審判は2ミニッツルールのための2分間の時計に責任を持つ。(2ミニッツルールを参照)
- 9 . 次のような場合放送をする。
 - a . 開催中の競技と結果のアナウンス。
 - b . 競技中の実況アナウンス。
- 10 . インフォメーションの掲示
 - a . スタート順の掲示：アスリートのスタート順、ゼンッケンナンバー、他のインフォメーションをスタート時点に掲示する。
 - b . 結果の掲示：フィニッシュエリアの後方に、アスリートの名前、スタート順、ゼンッケンナンバーを表にして、結果を掲示する。
 - c . 一般インフォメーションの掲示：一般インフォメーションと告知は競技施設、表彰場それと宿舎になるべく近くに掲示する。
- 11 . スキーエリアではスキーパトロールが競技上のあらゆる医療上の必要と処置を監督できるようにしておく。医療ボランティアの参加がある場合は、医療処置が上手く行われるようにスキーエリアは前もって十分に知らされておくようにする。ほとんどのスキー場において、このことはスキーエリアの責任となされる。
- 12 . 競技中のスキー装具の修理道具は、公認のサービスマンによって使用される。
- 13 . 競技施設、医療従事者、ボランティアの調整者、競技役員を連絡するシステムが適切でなければならない。競技施設は連絡網を持っても良い。

14. 場合によっては競技や種目の役員をはっきりさせることが役に立つし又必要でもある。大会本部は腕章やウインドブレーカーを支給したらよい。

セクションD - 役員

1. アルペン審判員

- a. 技術員
- b. 審判員
- c. 競技責任者
- d. コース責任者
- e. スタート審判員
- f. フィニッシュ審判員
- g. アシスタント審判員

2. 役員 - 審判員以外の役員

- a. ゲート審判員の責任者
- b. 計時と計算の責任者
- c. 競技の事務官
- d. 医療責任者
- e. インフォメーションの責任者
- f. 競技装備の責任者
- g. コース設定者
- h. コース設定者のアシスタント

3. ボランティアワーカー

- a. ゲート審判員
- b. 前走者
- c. コース進行係：世話役
- d. コース係
- e. 計時と計算係
- f. 医療、スキーパトロール
- g. 前走
- h. スタートとフィニッシュのアシスタント
- i. アナウンサー

セクションE - 競技ルール

1 . 一般的なルールと修正

- a . F I S のルールはスペシャルオリンピックのアスリートと競技監督者に世界的に標準化されたスキー競技の機会を与えてはいるが、F I S のルールはかなり高度の技術を獲得している競技者のみが参加するような競技会を執り行うために書かれていることを忘れてはならない。スペシャルオリンピックのスキーアスリートにおいてはそのような高度の技術を獲得しているものの数は極めて少ない。それゆえ、全てのスペシャルオリンピックアスリートにその能力にあったスキーの規則（ゲートの数、垂直のゲートの組み合わせ、高度差）は低い能力のスキーヤーにとってはあまりにも険しくて長すぎる地形にコースを設定している。スペシャルオリンピックのアルペンスキーコースはわれわれのアスリートに適応するようF I S のルールを修正してある。コース設定のルール、つまりゲートの幅、ポールとポール間の距離、スタートとフィニッシュエリアでの必要物などは大体同じである。スペシャルオリンピックスウインタースポーツルールの公式ルールに述べてある特別アルペン修正ルールがF I S の規則に置き換えられる。

- b . 初級レベルの種目に参加するのに要求されるだけの技術をマスターしていないアスリートは、歩行、グライド、スーパーグライドの種目に参加する。

- c . ディビジョニング
 - 1) コーチはスペシャルオリンピック冬季競技の公式ルールの一般説明の中にある、ディビジョニングとエイジグループの部分を調べておくようにすること。
 - 2) ビギナーのスキーヤーは申し込みをした種目でクラス分けされる。
 - 3) 初級、中級、上級のスキーヤーは能力に応じたレベルで修正したジャイアントスラロームのコースで2回試技を行い、早い方のタイムを競技するクラスを決めるために使う。競技組織者のスケジュールが許す限り、クラス分けのタイムトライアルは種目ごとに行われた方が良い。それぞれのクラスでの最初の滑走は、試走のタイムが一番早かったものからスタートし、一番遅かったものが最後となる。

- d . コースの設定：能力の低い種目（10m歩行、グライド）においてはコースは同じ色のゲートを使って設定してよい。スーパーグライドには赤と青のゲートを交互にを使って設定する。

- e . スタート地点：全てのスタート地点は、アスリートがリラックスした姿勢が用意

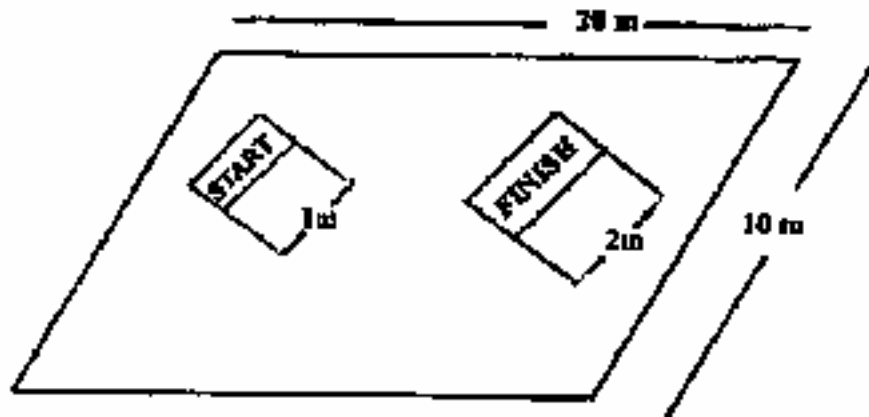
の姿勢でスタートに立てるようにしておくこと。この地点に楽に近づけるようにするとともに、一般のスキーマーの流れからこの地点を守るように配慮する。

- f . 2 ミニッツルール：競技の間に競技者がコースの一般の線から外れたら（転倒、ゲートの回りそこね、スキーが取れる等）競技者はコースに戻るのに脱線した時から2分間与えられる。この2分間のタイムリミットを守れなかったり、何らかの援助を受けた競技者は失格となる。失格は違反が起こった場所に一番近いゲートに配置されたゲート審判員のゲートカードによって決定される。ゲート審判員は責任を持って2分間を計る。
- g . スタートの合図：それぞれの能力のレベルのスペシャルオリンピックスのアルペン種目において、スタートの合図は次のようにする。「5・4・3・2・1・ゴー」計時はアスリートの前足のブーツがスタートラインを越えた時、電気計時標識が動き出した時から始まる。
- h . ゲートライン：ダウンヒルとジャイアントスラロームにおいて、間にパネルのついた2本のポール2セットからなっているゲートで地面（雪面）での2本の内側のポールを結ぶ想像上の最短の線がゲートラインである。スラロームにおいては地面（雪面）での回転側のポールと外側のポールを結ぶ想像上の最短の線がゲートラインである。
- i . 正しい通路：競技者のスキーの両先端と両足がゲートラインを横切った時をゲートが正しく通過されたとする。もし競技者が過失なしに（スラロームポールを踏まずに）スキーを失ったら、残っている片方のスキーの先端と両足がゲートラインを越さねばならない。スタートとフィニッシュラインでもゲートラインと同様にする。
- j . 競技者が自分のスキーの最先端と両足がゲートラインを越える前にポールを垂直の位置から動かした場合は、スキーの両端と両足は元のゲートライン（雪に印をつける）を越さねばならない。

2. ビギナーのアルペンスキーの種目

a. 10m歩行

1) 図



2) 準備

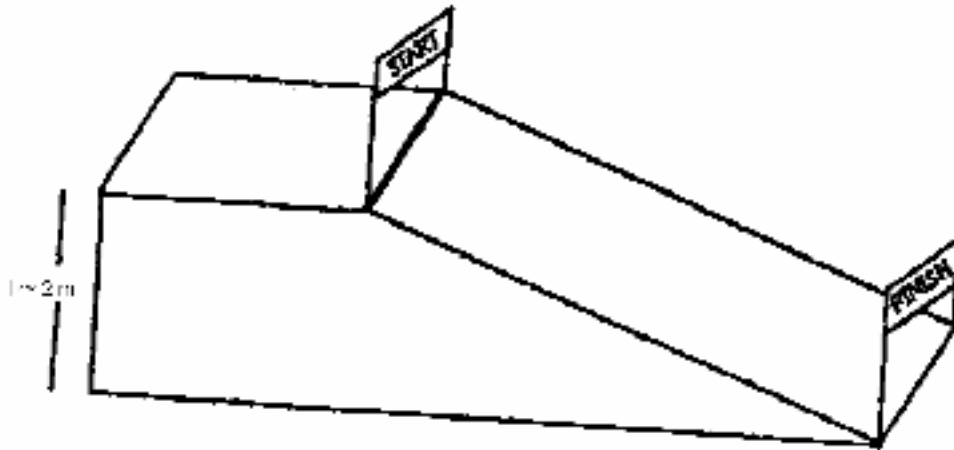
- この種目のために横20m、たて10mの平坦な場所を用意する。
- 本部と登録場所になるべく近い場所にしたい方がよい。
- 1m離して2本のポールを立て、その間の雪上にスタートラインを引く（色をつける）。

3) レースの展開

- アスリートはスタート地点で両方の靴の前方がスタートラインに一直線になるように立つ。アスリートはスキーのストックを持って持たなくてもよい。
- スタートの合図「5・4・3・2・1・ゴー」でアスリートはスタート地点を離れる。もしアスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してよい。
- アスリートの前靴がスタートラインを横切ったら計時を始める。
- アスリートはスタートからフィニッシュへ歩いていく。
- アスリートの前靴がフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

b . グライド

1) 図



2) 斜面の設定 (ビギナー用の斜面は本部に近いところにする)

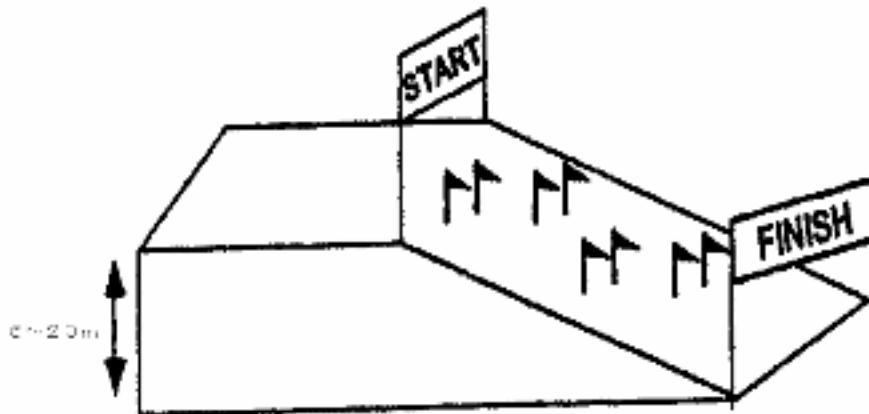
- a) 斜面の高さは 1 ~ 2 m にする。
- b) 斜面の長さは 10 ~ 15 m にする。
- c) 斜面はなだらかでフィニッシュ地点は平坦になるようにする。
- d) スタート地点は平坦にし、平坦な部分が斜面にかかる点にスタートラインを引く。
- e) スタートラインをはさんで 1 m の間隔に 2 本のポールを立てスタートゲートとする。
- f) フィニッシュラインをはさんで 4 m の間隔に 2 本のポールを立ててフィニッシュゲートとする。可能であればフィニッシュ用の旗を使う。

3) レースの展開

- a) アスリートはスタート地点で両方の靴の前方がスタートラインに一直線になるように立つ。アスリートはスキーのストックを持ってもいいし持たなくても良い。
- b) スタートの合図 : 「 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 ・ ゴー 」 でアスリートはスタート地点を離れる。もしアスリートが上手くスタートできないときはスタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助しても良い。
- c) アスリートの前靴がスタートラインを横切ったら計時を始める。
- d) アスリートはスタートラインからフィニッシュへ滑っていく。
- e) アスリートの前靴がフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

c . スーパーグライド

1) 図



2) 斜面の設定 (ビギナー用の斜面は本部近くにする)

- a) 斜面の高さは5 ~ 20 mとする。
- b) コースの幅は最低25 mとする。
- c) コースの長さは50 ~ 100 mとする。
- d) 滑走面はなだらかで凸凹や逆斜面がないようにする。
- e) コースの全面をリズムカルに連続してプルークボーゲンできるように4 ~ 6のゲートを設定する。
- f) スタート地点は平坦にして、平坦な場所が斜面にかかる場所にスタートラインを引くか計時バーを設置する。スタートラインの幅は1 m以内とする。
- g) フィニッシュ地点は少なくとも幅4 mにして、アスリートが平坦な場所に入ってこれるようにする。

3) レースの展開

- a) アスリートはスタートの合図で出る。：「5・4・3・2・1・ゴー」
- b) 靴の前がスタートラインを横切るかアスリートの足が計時バーを作動させた時に計時を始める。
- c) アスリートの前(最初の)靴がフィニッシュラインを横切った時に計時が終わる。

4) 技術レベル—グライディングウェッジスキーヤー

コースの設計

3．初級者用のコース設計

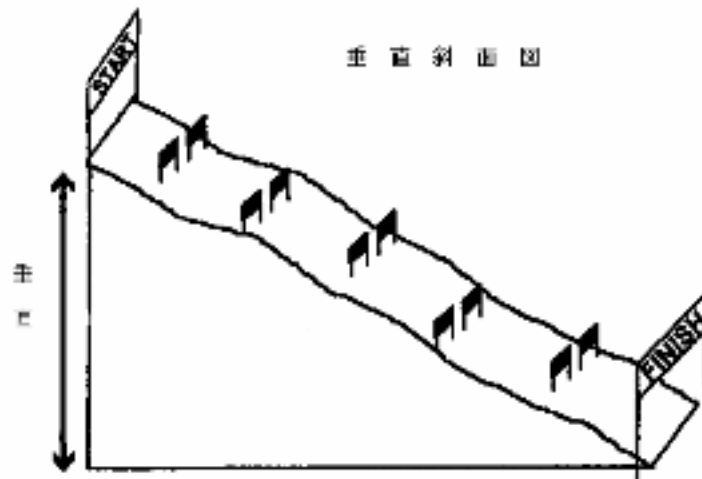
| 種目 | ゲートの数 | 高さ | コースの幅 | クラス |
|---------|-------|--------|-------|-----|
| スラローム | 5～15 | 15～50m | 30m | 初級者 |
| G．スラローム | 5～15 | 20～70m | 30m | 初級者 |
| ダウンヒル | 5～12 | 25～70m | 30m | 初級者 |

4．中級者用のコース設計

| | | | | |
|---------|-------|---------|-----|-----|
| スラローム | 15～30 | 30～100m | 30m | 中級者 |
| G．スラローム | 15～30 | 50～150m | 30m | 中級者 |
| ダウンヒル | 15～30 | 50～200m | 30m | 中級者 |

5．上級者用のコース設計

| | | | | |
|---------|-------|----------|-----|-----|
| スラローム | 20～45 | 60～200m | 30m | 上級者 |
| G．スラローム | 20～40 | 100～300m | 30m | 上級者 |
| ダウンヒル | 15～35 | 150～350m | 30m | 上級者 |



6 . 種目の修正

a . スラローム・ジャイアントスラローム

- 1) スラロームとジャイアントスラロームのレースは、2 回の計時した滑走からなる。それぞれの競技者のタイムを合計した結果が表彰の対象になる。
- 2) 2 回目の滑走のためのコースの修復は、審判員によって決定される。
- 3) スラロームとジャイアントスラローム種目において、アスリートの一番目の滑走のタイムがそのクラスでの 2 番目の滑走のスタート順を決める。一番目の滑走で遅かったものが一番にスタートし、一番速かったが最後になる。失格者も 2 回目の滑走をしても良いが、その場合そのクラスの最後に滑走する。

b . ダウンヒル

- 1) 競技×組織者は競技するアスリートの能力に合わせてダウンヒル競技の困難さの程度を変化させて良い。
- 2) 全てのアスリートは競技の前に一度だけ同じコースを練習のために試走しなければならない。
- 3) 競技組織者は試走を掲示しても良いが、これは競技のスタート順とは何の関係もない。
- 4) ダウンヒル競技は掲示された一回の滑走によりなる。

<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本本部事務局にご連絡ください。